

ママが笑えば、みんなハッピー！

Mamagon

豊橋市・豊川市・田原市 月刊ママゴン

07

2014 Vol.112
TAKE FREE

特集 子どもは、あそびの天才。



撮影協力/下長山保育園



NPO法人ママゴンネット



テーマ 2 子ども × あそび

中島章裕園長



「とても大きなテーマですが、ズバリ子どもにとって、あそび、とは何でしょうか。」

中島章裕園長先生(以下中島)・子どもにとって、あそびは、生活のほとんどですね。だから、もちろん子どもはあそびの天才ですよ。ただ子どもの成長のために親や大人が気をつけたいのは、いろいろな種類のあそびがあることを伝えてほしいということ。子どもに「好きに遊んでいいよ」という例えはゲームなんかは、線路が続いているようにずっとやり続けるでしょ。でも他にもあそびって、たくさんあるよ。なわとびもあやとりも鬼ごっこもお手玉も。みんなでやるあそびの楽しいところや一人でじっくり取り組むあそびの楽しさとの違いを、子どもたちが実感できるように声掛けしないといけないよね。

Q おとなになったら何がしたい? ⇒ A「ママのお手伝い♪」 ひかりちゃん(3歳)



社会福祉法人 明照保育園
豊橋市牟呂中村町6-1
Tel 0532-31-1419



「あそびの種類や楽しみ方が沢山あるということを子どもに伝えるために、私たち大人は、どうしたらいいですか。」

中島・今の子どもたちは、モノがあふれているのが当たり前だから、ゲームにしてもDVDにしても否定しないことですかね。だってゲームってホントにおもしろいからね。そりゃ子どもは夢中になると思う。だから初めから大人や親の裁量で「テレビはダメ」「けん玉はいい」「ゲームはダメ」と決めて、あそびの幅を狭めないこと。

そしてもっと大事なことは、一緒に楽しむことじゃないかな。「今日は、これをやってみよう」「じゃあ次は○○あそびはどう？」と親から提案したり、子どもと一緒に考えたりしてね。ただし親が楽しむあまり、子どもに何もやらせないなんて

ことにならないようにね(笑)。「そうじゃないよ。こうやってあそぶんだよ」と言いながら一緒にあそんでいたはずなのに、いつの間にか子どもそこのけになっちゃうってこと、よくありますよ。

「そうですね。大人は経験から上手くやる方法を知っているから、いつい口や手を出したくなるんですよ。子どものあそびに上手に関わるコツは、何かありますか。」

中島・そうですね。ポイントは「ちよっと」。かな。子どもが集中しているときは、下手に口や手を出さず、ちよっと見ていて、あげてほしい。口や手を出さないうで見守ることで子どもが自分で考え、チャレンジする時間をあげられるんだよね。助けを求めているときにだけ、手を差し伸べればいいんです。これはあそ

「では、逆に昔と現在の違いは何かありますか。」

中島・子どもの姿は、基本的には変わっていないと思う。変わったのは環境や社会、大人の考え方だね。それからあそびの輪が小さくなった気がします。園以外の場で異年齢の子どもと遊ぶことが少なかったり、ある決まった友達としか遊ばないこともあるみたい。

それらが関係しているのかどうかわからないけど、鬼ごっここの鬼になると怒ってしまつて遊べない子もいると小学校の先生から聞いたことがあります。ルールを守らなくてはいけないとわかっているけど感情がついてこない。

「感情がついてこないというのはどういうことでしょうか？」

「子どもは興味をもって、スポンジが水を吸うように新しいことを吸収する」と聞きますが、そういうことなんでしょうか。」

中島・そうですね！驚くほどの意欲が湧いてきて、こっちがビックリするくらいですよ。これは昔も今も変わらない子どもの素晴らしい姿だね。キラキラしていて、この瞬間に立ち会えるとホントに嬉しいですよ！

びだけでなく、日常生活の中でも大切なことになってきます。

それから子どものあそびを見てみると「あ、今の子、あそびが煮詰まってきたな。行き詰まってるかな」というときがあるんですよ。そんなときに、ちよっとのヒントを投げてあげられると、また集中できてあそびが広がっていくんだよね。でも親はいつでもそんなに子どもに付き合えるわけでもないから、何が何でもこうしなきゃと思わないでね。できるときでいいんです。

「あそびに喧嘩はつきものですが、それについてはどう考えていますか。」

中島・大怪我をするような喧嘩はオススメできませんが、意見のぶつかり合いの喧嘩はほとんどやってほしいですね！…大人も子どもも価値観って人によって千差万別だから、意見が違ってくるのは当たり前。いろいろな人がいて、価値観もそれぞれ違うんだよということも子どもにも伝えていきたいよね。だから「喧嘩はダメ！」ではなく、いろいろな考えがあるんだということを知って、そのあとにどう仲直りするかが大事。

子どもの前で夫婦喧嘩をしてしまったら、子どもの前で仲直りすればいいんです。「言い過ぎてごめんなさい」「悪かった」と。それが謝り方や仲直りの仕方のお手本になるからね。

「あそびから学ぶことって沢山あるんですね。」

中島・ホントにそうですね。できるようになったときの喜びや達成感だったり、助け合う気持ちだったり、小さい子への配慮だったり、友達との付き合い方だったり、頑張る気持ちだったり…まだまだホントにたくさんあります。あそびって簡単だけど、奥が深くて大事なものの！でも子どもは当たり前だけど、あそびから何かを学ぼうとは思ってないよね。だから実は子どもにとって、字を書く

と思ひ直せるんですよ。こういうところから我慢することを覚えたりしていくんです。

「最後に、あそびを通してパパママメッセージをお願いします。」

中島・あそびに限らずだけど親が考え過ぎちゃうと、きこちないあそびや子育てになっちゃうから、ただ一点、ブレない存在でいてください。気張らなくていいけど、あそびでも親でも親がブレると子どもはどうしていいのかわからなくなるからね。子どもの世界で大きな割合を占めるあそびは、実は社会につながっているんだよね。子どもは、実生活につながることをあそびの中で自然に行つて学んでいます。



津田保育園時代の章裕くん
得意のブランコで見事着地するはずが、裏の金網に突っ込んで痛い目にあう^^;



中島章裕 園長
社会福祉法人 明照保育園園長(隊長)
豊橋市保育園協会会長